

## 20歳からの体重増加・腹部肥満と慢性腎臓病との関連： 縦断研究（ZRF study）

落合 裕隆<sup>1</sup>、白澤 貴子<sup>1</sup>、吉本 隆彦<sup>1</sup>、長濱 さつ絵<sup>2,3</sup>

<sup>1</sup>昭和大学医学部衛生学公衆衛生学講座

<sup>2</sup>一般財団法人全日本労働福祉協会

<sup>3</sup>東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野

【目的】20歳からの体重増加・現在の腹部肥満の組み合わせと慢性腎臓病（Chronic kidney disease: CKD）との関連について検討することを、本研究の目的とした。

【方法】2014年度（ベースライン時）に一般財団法人全日本労働福祉協会が実施した健康診断受診者（40～64歳）を対象とした。ベースライン時の健康診断の問診票における「20歳の時の体重から10kg以上増加している」の項目に、「はい」と回答した者を「20歳から10kg以上の体重増加あり」、「いいえ」と回答した者を「20歳から10kg以上の体重増加なし」と定義した。男性においては腹囲 $\geq 85$ cmを腹部肥満と定義し、女性においては腹囲 $\geq 90$ cmを腹部肥満と定義した。「推算糸球体濾過量 $< 60$ mL/min/1.73m<sup>2</sup>」または「尿蛋白陽性」をCKDと定義した。Cox比例ハザードモデルを用いて、追跡期間（2015年4月～2020年3月）におけるCKDの発症に対するハザード比（HR）・95%信頼区間（95%CI）を算出した。

【結果】男性（66,254名）においては、「20歳から10kg以上の体重増加なし＋非腹部肥満（腹囲 $< 85$ cm）」に比べて、「20歳から10kg以上の体重増加あり＋非腹部肥満」のHRは1.16（95%CI：1.08-1.25）、「20歳から10kg以上の体重増加なし＋腹部肥満」のHRは1.44（95%CI：1.34-1.54）、「20歳から10kg以上の体重増加あり＋腹部肥満」のHRは1.63（95%CI：1.55-1.71）であった。女性（28,714名）においても、同様の結果であった。

【結論】20歳から10kg以上の体重増加は、CKDの発症と有意な関連が認められた。CKDの予防には、現在の腹部肥満の有無にかかわらず、20歳からの体重増加に留意することが重要であると考えられた。